

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームやまなみ)

事業所番号	0692500051		
法人名	NPO法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町5-10		
自己評価作成日	令和3年9月27日	開設年月日	平成22年11月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 開所10年を経て、つちかった認知症介護のノウハウを地域での認知症相談活動に生かして行きたい。  
2. 今年度、中退共の退職金制度に加入したため、職員の定着が良くなったように思う。計画的に職員研修と資格取得のすすめに努めたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 11月 8日	評価結果決定日	令和 3年 11月 26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目を新管理者と共に迎え、チームワークをより深めて利用者・家族等の信頼に応えられるよう取り組み、ホームでの穏やかな暮らしに繋がっています。昨年来より新型コロナウイルス感染症対策の学習会を重ね、運営推進会議でも取り上げてこの異常事態に対応し、事業所と共に歴史を刻む「会報やまなみ(町内全戸に配布)」を可能な限り理事長自ら手配りして、地域の方と対話しながら役立つ情報の発信に努めています。またレクリエーション活動では職員配置を工夫して利用者と一緒に楽しむ時間を増やし、得意な所が発揮できる場面作りにも努めています。これからも職員の資格取得や福利厚生に力を入れて人材育成と働き甲斐のある職場で、地域と共に皆が幸せに暮らせる社会をめざし取り組んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症という病気を理解し、利用者に寄り添いながら手作りの家庭的な食事を提供したり穏やかな生活を支援している。	事業所理念には支援のあり方が6項目にわたり掲げられており、理事長が折に触れ理念に沿った話をして確認している。特に新人職員には研修期間に理解を求め、利用者との信頼関係を深めながら家庭的で安らげる環境作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ禍で地域との交流は難しいが、会報やまなみを町内全域に配布して情報を発信したり、認知症カフェを感染症対策をして行っている。	事業所で開催していた認知症カフェはコロナ禍で公民館に場所を変え、感染症対策をしながら地域の方の参加を得て行われている。会報やまなみ発行も事業所と共に歴史を重ね、高齢者福祉の基礎知識など地域の方に役立つ情報を発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会報やまなみでホームの生活の様子を地域に発信したり、認知症カフェで認知症の相談活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多様な職種のメンバーで活発な意見交換を行っている。コロナ禍で書面開催もあったが、2ヶ月に一度、欠かさず開催され、意見をいただいている。	会議が書面開催の時は理事長自ら委員全員に資料などを手渡しして意見交換している。感染状況が緩和された今は通常通り対面で開催され、テーマに沿った活発な話し合いがもたれ、出された意見はミーティングで職員も共有しサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症カフェや運営推進会議に地域包括支援センターから参加してもらい、相談活動や意見交換を行っている。	地域包括支援センターからは運営推進会議への参加や認知症カフェで協力を得ると共に、サービス担当者会議にも加わってもらい実情を理解して何でも相談できる良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束適正化等対策委員会を月1回開き(職員ミーティング時)職員全員で確認している。身体拘束は行っていません。転倒などのリスクがあるため、家族の理解を得て、ベッドセンサーなどで転倒防止に努めている。カギを開けて外に出てしまう方がおり、安全のため、玄関にカギをかけている。	身体拘束廃止マニュアルを基に拘束しない介護をめざして取り組んでいる。利用者の行動を良く観察し、職員間のコミュニケーションを密にして情報を共有しながら、安心と尊厳ある生活を提供している。また開錠にむけての話し合いも継続して行い対応策を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の職員ミーティングや、施設内で行う研修、仕事を通じてケアを学び、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、職員学習会や資料、本等をそろえたが、新しく入った職員もいるため、実際は理解されていないと思う。今後、学習会等を行っていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、ご家族に契約書、運営規程、重要事項説明書を読み上げ、説明を行ってから契約をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行のホームの利用者別の「たより」と隔月発行の「会報やまなみ」で入居者の生活の様子を知らせている。また、それへの感想もいただいている。	家族等には理事長が「おたより」や「会報やまなみ」を持参して話を聞いている。面会制限の時期もある中、家族付き添いの通院時やこまめな電話で近況を伝えて馴染みの関係作りに努め、信頼に繋げている。また利用者の食の要望にも応え、買い物など個別支援もしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティング等で、職員からの意見、要望が多くなった。皆で話し合い、納得できる結果が出るよう努力している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より退職金制度に入ったり、職員個々の実績などもきちんと把握し、処遇改善に努め、働きやすい環境づくりに努めていただいている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員学習会や講習会、町内医療機関の看護師さんによる研修会等々、資格を得るための機会を作ってもらっている。	毎月ミーティング時に学習会を行い、理事長から意見・感想を求められるなど真剣に向き合う学びの場として活かしている。資格取得にも力を入れており、積極的に外部研修への受講を勧め、シフト調整の配慮や助成金なども活用してバックアップ体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	一昨年までは、自施設でコンサートを行ったり、宮城県大崎市のグループホームのお祭りに招待されて、交流していましたが、コロナ禍で交流を自粛している。	理事長が山形県グループホーム連絡協議会の副会長として総会やリモート会議に出席している。町内介護事業所の情報交換会には管理者が参加して交流しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の思いに寄り添い、共感し、安心していただけるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面会時や電話連絡の時などに話をよく聞き、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さん、家族と話し合い、サービスを提供している。最近のケースでは、入院時の看護師、ケアマネ、リハビリの先生、民生委員等から情報を聞き、必要なサービスを提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、新聞折り、パズル等を取り入れたり、いっしょに食事し、体操で身体を動かし、明るい雰囲気大切にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今はコロナ禍で、面会も制限されている、月1回の「たより」と電話で、生活の様子を知らせている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、面会も制限し、外食も自粛している。地元の食堂から出前をとって食事を楽しんだり、感染対策をして理事長がドライブに連れ出し、町の様子を見に行ったり、利用者さんの空家を見に行ったりしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	よく観察し、職員間で情報交換し、利用者さん同士が楽しく過ごしていた」だけのよう支援している。最近ではレクリエーションも多く会話ははずみ、楽しくしている様子がみられる。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	6月に病気のため退去した利用者さんの例ですが、家族に法人の会員になってもらい、その後の安否確認で訪問したり、会報を家族全員(3人)にとどけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	民謡を聞いたり、テレビで時代劇を見たり、勤務中にも利用者さんと接する時間がもうけられているので、会話を通じて「希望に沿っているか」「どう考えているか」などを様子を観察しながら把握に努めている。	入居時に家族等や関係者から話を聞いて記録し、これまでの暮らし方や心身の情報を職員間で共有している。利用者二人になった時に発した言葉や普段と違う様子が見られた時など、申し送りや連絡を密にして皆で思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にサマリーに目を通し、これまでの生活歴を把握。家族形態や家族関係の変化、住宅事情を把握し、質の高いサービスの提供に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、有する力等は、職員間で情報を共有し、バイタルチェックは毎日行い。健康状態を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員ミーティングのケアカンファレンスで職員の意見を聞き、サービス担当者会議で家族の意見を聞き、介護計画に反映させている。	計画作成担当者が介護記録をもとに状態を把握し、利用者一人ひとりに声をかけて本人の意向を聞いている。ミーティング時の検討会で意見を出し合い、家族等の希望も反映された介護計画を作成し、現状に応じて見直しも行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日、介護日誌で記録に残し、情報共有に努めている。介護計画の見直しにも活かされている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で、ホームで行うコンサートや地域の祭り、いも煮会等に参加できませんが、季節の野菜をいただいたり、彼岸のポタモチ、夏のあゆ食など、食の豊かさを楽しんでいる。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にかかりつけ医を決めてもらっている。定期受診は家族の方の付き添いで行ったり、難しい場合は職員が対応している。協力医の訪問診療を受けている方も多い。</p>	<p>利用者・家族等の希望するかかりつけ医となっており、協力医による訪問診療を受けている方もいる。通院は基本的には家族等が付き添い、受診前の情報や結果も共有している。委託契約している看護師の週2回定期訪問があり相談事や指示・アドバイスをもらい、安心な医療体制に繋げている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回定期的に看護師が訪問ケア中に得た情報を報告し、指示を仰ぎ、アドバイスをいただいている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>担当医より入院の必要性が生じた場合、紹介状を書いてもらい、入院治療をしている。入院先の医師より、退院が決まれば情報提供があり、連携して介護につなげている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>介護度が高くなったり、身体に変化があった時、家族にアンケートをいただいて、終末期について、家族と話し合いを行っている。ホームの「看取りと重度化」の指針について、新しい職員が増えているので学習に取り組む。</p>	<p>入居時に文書化した「看取りと重度化に関する指針」を基に事業所の対応方針を家族等に説明し、理解を得ている。主治医から重度化の診断を受けた時点で家族等と話し合い、「看取り介護」についての意見要望書(アンケート)をもらって確認し、今後の方針を統一して希望に沿えるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員のほとんどの人から、何度か訓練をしているが、いざという時に不安を感じるという。安全管理実践帖にもとづく訓練が今年の課題だ。(目標達成計画に入れる)			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災想定避難訓練は、一昨年まで行っていたが、昨年はコロナ禍もあり、職員ミーティングで映像確認となった。この課題も今年目標とした。	例年は法人会員や地域の方から訓練に協力をもらっているが、コロナ禍で交流を自粛しているため昨年と今年は利用者が参加した避難訓練を実施せず、職員だけで机上での学習会などの訓練となっている。飲料水・食料品・ライト・電池・防寒具などの備蓄をして災害に備えている。	コロナ禍の影響は理解できるが災害はいつ発生するかわからないので、事業所単体で利用者も参加した訓練の実施や、非常持ち出し品の整備など日頃から防災意識を高める取り組みに期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いに寄り添い、思いを尊重するよう心がけている。幼児語、命令語、指示語など使わないよう心がけている。	利用者の個人情報に関わる会話は他の人に聞こえないようにプライバシーに配慮して居室でするなど、職員は場所を選んで話すようにしている。レクリエーション時などに利用者の得意分野の新しい発見があり、職員の声掛けで継続して力を発揮出来るような場面作りを工夫し、笑顔に繋げている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導、毎日の体操で自己決定を促す声かけをしたり、入浴時に会話をして、話を聞いてあげたり、自己決定を尊重している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事づくり勤務日をつくるなど、人手に余裕が出てきたので、利用者さんに寄り添えるようになってきたと思う。勤務中も手を止めて、利用者さんと話をしている姿も多く見られる。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選べる人には、着る服を選んでもらっている。自室で自由に着替えている人もいるが、散らかったり、衛生面とのバランスも問題点。理美容は自分で選んでいる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節を感じてもらっている。コロナ禍で、出前をとって楽しんだりしている。利用者さんからお盆下げを手伝ってもらっている。	職員が当番制で1週間分の献立を作成し、利用者から下ごしらえなどの手伝いを得て手作りの食事を提供している。外食の要望があるがコロナ禍で自粛しており、季節の野菜・リクエストメニュー・行事食・出前弁当などで変化を楽しみ、食欲旺盛な利用者を喜ばせている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録している。バランスを考え、個々にあわせたメニューを工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。夜は、口腔洗浄剤を使用し、口腔内が清潔に保たれるよう努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事の前後や個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間はベッドセンサーで駆けつけ介助している。	トイレチェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は時間を見計らった誘導や、また夜間はベッドセンサーを利用して職員が駆けつけて付き添うなど、殆どの利用者がトイレで排泄している。失敗時には羞恥心に配慮しながらさりげない対応を心掛けている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動に気を配り、ほとんどの方はコントロールできている。中には対応が難しい方がいて、常に試行錯誤している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は午前中に行っている。利用者の心身の状況を十分に把握し、本人の意向も聞いた上で、できるだけ自立して入浴できるよう介助することを心がけている。	利用者の体調や希望に合わせて、特に曜日は決めずに午前中に1日置きぐらいのペースで入浴している。職員と1対1になる時間で会話も弾み鼻歌や本音が出る時もあり、情報として職員間で共有している。入浴好きな利用者が多く、ゆっくりくつろいでもらえるよう職員は安全面に配慮しながら支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に自室に行き来できている。利用者さんのペース、習慣に合わせている。静かな声掛けを心掛け、安心して眠れるよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルや、お薬手帳、薬効表などに目を通し、変更、変化があれば全体で共有し、安全に服用できるよう努めている。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出、外食等は、コロナ禍のため出来ないが、季節を感じてもらえるよう施設内の食事を工夫し提供し、喜んでもらっている。脳トレ体験や民謡を聞いたり、紙芝居をしたりして楽しんでいる。	/	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理事長がよくドライブに行ってくれる。利用者さんの家の前まで行かれたと聞いている。今までは地域のイベントに積極的に参加していたが、全て中止となり、利用者さんもガッカリしているが、ホームの裏側のソバ畑の収穫も楽しみだ。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金を所持していただかないようにしている。本人の希望で、お金の入った財布を持っている方はいるが、使う様子や希望はみられない。	/	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が1人おり、家族と自由に連絡をとりあっている。本人希望で連絡をとりたい方は職員が対応し、自由に通話している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には絵、写真が多く飾られ、外の光も多く差し込み、とても気持ちのよい空間になっている。レクなどで作った物も飾り、楽しく過ごせるよう工夫、努力している。	定例のコンサートや認知症カフェ開催もコロナ禍で中止となり、利用者と来客者との触れ合いがなくなり寂しい面があるが、感染対策をしたリビングの大きな窓から見える景色や掲示物から季節を感じている。一日の流れの中で利用者は自然とリビングに集まり、好きなテレビ鑑賞やソファでの談話などをして穏やかな日々を過ごしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルには2～3人ずつ座っており、ソファやイスもあり、思い思いに過ごせる場所がある。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や好きな芸能人の写真を飾っている方もいる。使い慣れたタンス、くし、布団を持って来られて、住み慣れたものを使っている。	介護用ベッドが備え付けてあり、布団など使い慣れたものを自由に持ち込み、好きなポスターを貼ったり自分好みの居室作りをしている。職員はベッドセンサーを活用した夜間のトイレ誘導など安全面に配慮しながら、居心地良く過ごせるよう支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、脱衣所、浴室に手すりを付けたり、ベッドセンサーを付けたり、歩く導線上に障害物をなくし、安全に自立した生活ができるような環境づくりに努めている。		